

学校教育活動全体を通した 安全に関する学習について

大阪教育大学 教授

学長補佐(学校安全担当)

学校安全推進センター長

藤 田 大 輔



大阪教育大学では、**附属池田小学校事件の教訓**を基に、
わが国の教育振興基本計画における

自助・共助・公助の理念の下に、

教職員，児童・生徒，PTA，地域が参加する

共感と協働に基づく

安全教育・安全管理・安全連携

を推進する新たな包括的な「学校安全」の取り組みとして、

「セーフティプロモーションスクール(SPS)」

の普及を推進しています。



「第3次学校安全の推進に関する計画」

(令和4年3月25日閣議決定)

「Ⅱ 学校安全を推進するための方策」

「1. 学校安全に関する組織的取組の推進」

「(2)学校安全計画に基づく実践的な取組内容の充実」
の中で、

「第3次計画期間においては、**セーフティプロモーションスクール**の考え方を取り入れ、学校医等の積極的な参画を得ながら、学校種や児童生徒等の発達段階に応じた学校安全計画自体の見直しを含むPDCAサイクルの確立を目指す。」と明記されました。



「教育振興基本計画」（閣議決定：令和5年6月16日）

「Ⅱ．今後の教育政策に関する基本的な方針」の、 「5つの基本的な方針」

「⑤計画の実効性確保のための基盤整備・対話」の中で、 （児童生徒等の安全確保）

○「第3次学校安全の推進に関する計画」に基づき、組織的・実践的な安全対策に取り組むセーフティプロモーションスクール^①の考え方を取り入れ、全ての児童生徒等が、自ら適切に判断し、主体的に行動できるよう、安全に関する資質・能力を身に付けるとともに、学校安全に関する組織的取組の推進、家庭・地域・関係機関等との連携・協働、学校における安全管理の取組の充実等を推進する必要がある。」と明記されました。



「第3次学校安全の推進に関する計画」

(1) 家庭、地域、関係機関との連携・協働の推進

- ・地域学校安全委員会やコミュニティ・スクール等の仕組みを活用して、**地域と協働して**学校安全に取り組んだ学校数
- ・学校安全に関する **PTA の参画**状況(**安全点検**、**登下校時の見守り活動**等)

「4. 学校における安全管理の取組の充実」

- ・**児童生徒**が**安全点検**に参加する活動を行っている学校数
- ・**専門的な視点から**、学校における具体的な**安全点検**の方法、体制を構築している学校設置者数
- ・重大事故の予防のための**ヒヤリハット事例**に関する校内での**定期共有**の状況



【大阪教育大学附属池田中学校の実践事例】

ヒヤリハットシステムを活用した安全な学校作り

(1)ヒヤリハットの入力

玄関近くのモニター



Chrome bookでの入力画面



【大阪教育大学附属池田中学校の実践事例】

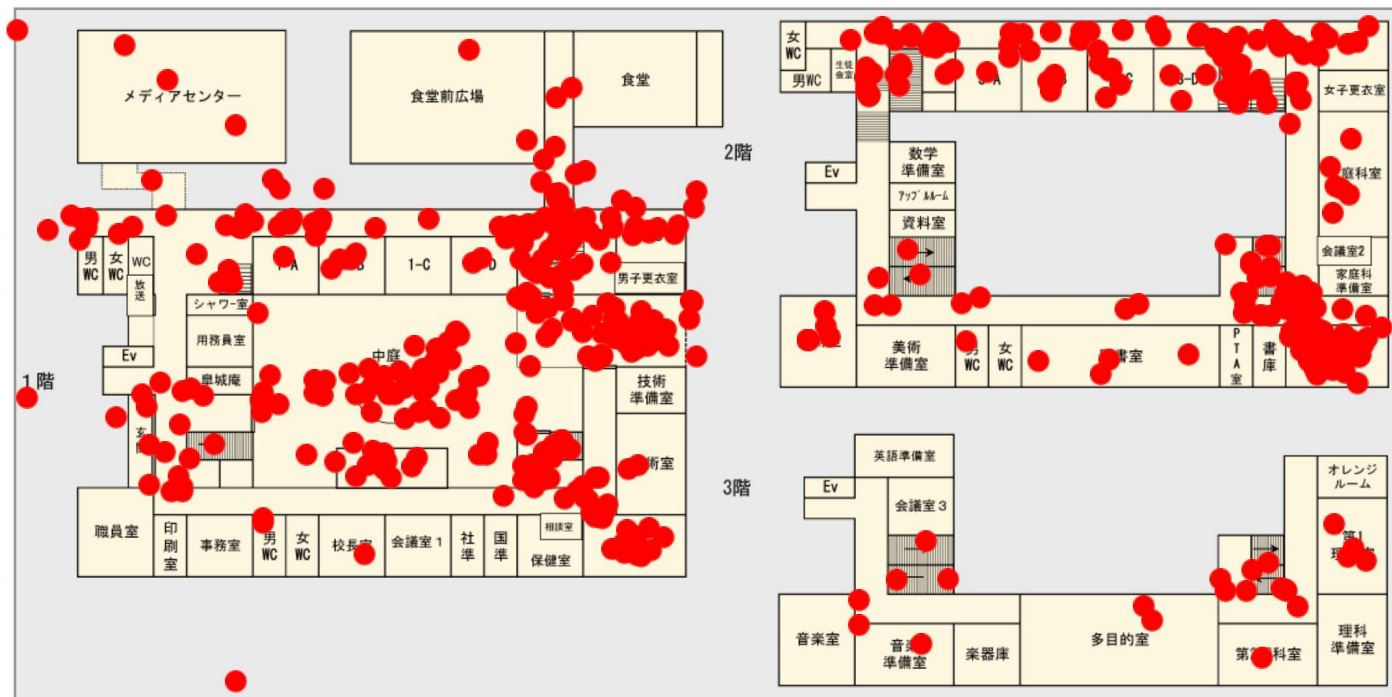
ヒヤリハットシステムを活用した安全な学校作り

TOPへ戻る

ヒヤリハット集計

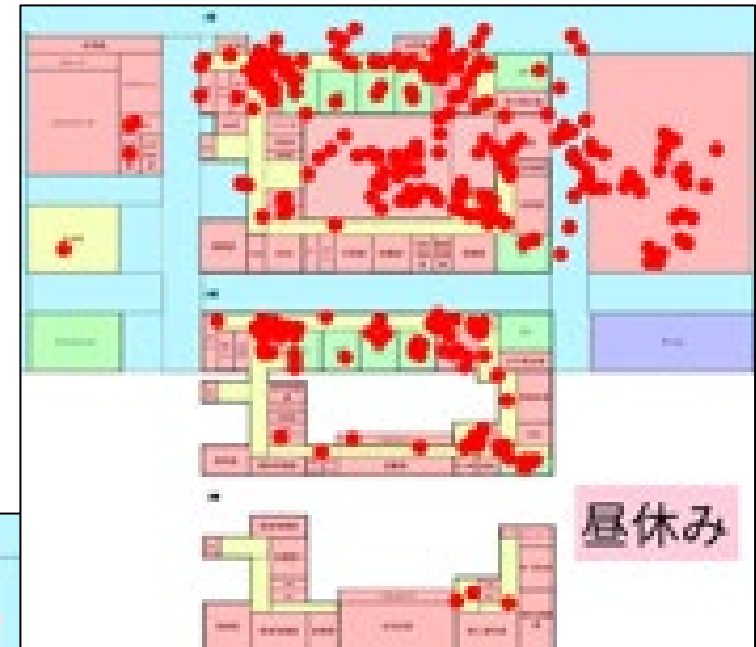
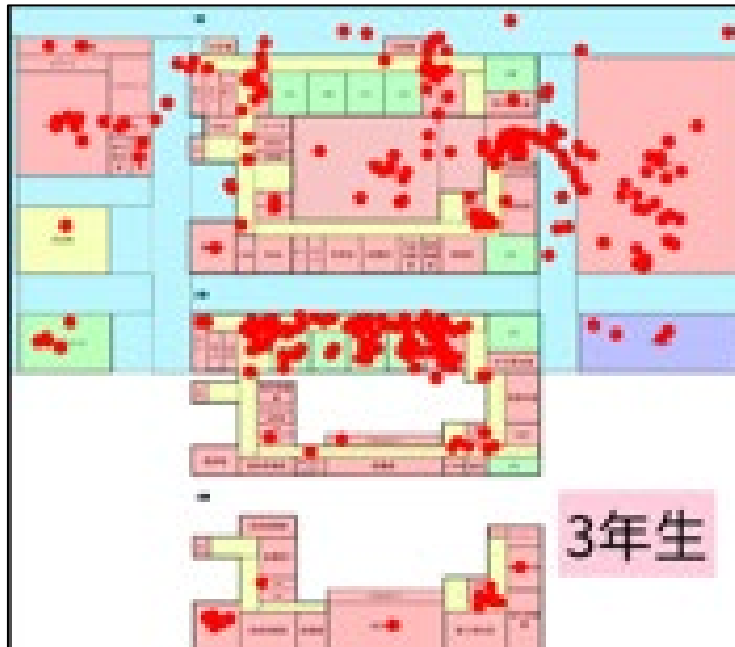
今年度

全体	転んだ	落ちた	激突	飛来・落下物	物が倒れてきた	ボールが飛んできた	はさまれ	その他
723	219	47	263	10	7	13	15	149



【大阪教育大学附属池田中学校の実践事例】

ヒヤリハットシステムを活用した安全な学校作り



【大阪教育大学附属池田中学校の実践事例】

ヒヤリハットシステムを活用した安全な学校作り

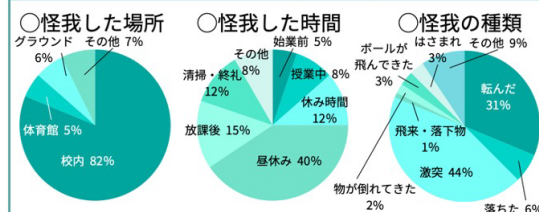
(2)生徒会安全委員の取り組み

毎金曜日の終礼に安全委員がヒヤリハットの入力呼びかけ、入力してもらう

⇒集計を円グラフなどを使い、ポスターにまとめ、次週で生徒への注意を促す

ヒヤリハットについて 安全委員会

ヒヤリハット -分析- 11/1～11/27



○特に怪我の多い場所：校内

- ・転ぶ、落ちる、激突が特多い
- ・廊下の曲り角、階段、食堂の前などが特に怪我の多い場所となっている
- ・ほとんどが走っていた、周りをきちんと見ていなかった、といった理由
→不注意によるものが多い 1人1人が意識する

○特に怪我の多い時間：昼休み、放課後

- ・遊びに行く、食堂に行くなどの理由で、焦って走る人が多い
→走らない 落ち着く 周りをよく見る
- ・部活中の怪我
→周りをよく見る 気を抜かない

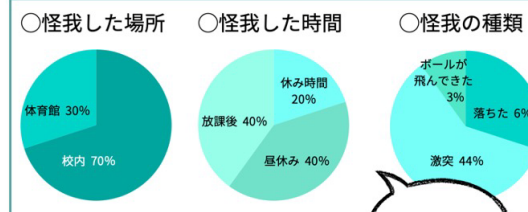
危険を感じた場所やその原因を分析・共有

⇒学校生活を安全に

ヒヤリハットの入力にご協力をお願いします！

ヒヤリハットについて 安全委員会

ヒヤリハット -分析- 12/1～12/17



○特に怪我の多い場所：校内

- ・落ちる、激突が特多い
- ・廊下の曲り角、階段、食堂の前などが特に怪我の多い場所となっている
- ・ほとんどが走っていた、周りをきちんと見ていなかった、といった理由
→不注意によるものが多い 1人1人が意識する

○特に怪我の多い時間：昼休み、放課後

- ・遊びに行く、食堂に行くなどの理由で、焦って走る人が多い
→走らない 落ち着く 周りをよく見る
- ・部活中の怪我
→周りをよく見る 気を抜かない

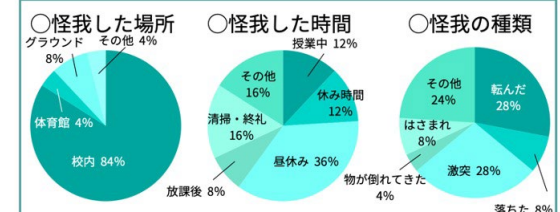
危険を感じた場所やその原因を分析・共有

⇒学校生活を安全に

ヒヤリハットの入力にご協力をお願いします！

ヒヤリハットについて 安全委員会

ヒヤリハット -分析- 8月～10月



○特に怪我の多い場所・ケース

- ・転んだ
教壇に気付かずつまずく、落ちる
机の左右にかかっている荷物や荷物の紐に引っかかる など

- ・激突
1D横階段・3D横階段・保健室前階段・廊下の曲り角 など



危険を感じた場所やその原因を分析・共有

⇒学校生活を安全に

ヒヤリハットの入力にご協力をお願いします！

10

ヒヤリハットシステムを活用した安全な学校作り

(4)改善案の作成（校内ピクトグラム）

ピクトグラムの作成（総合：2年生）

- ・周囲への意識を高める
- ・けがを減らす



【高槻市立第三中学校の実践事例】

中学校 数学科（安全教育）単元計画略案

単元名：ヒヤリハットから学ぶ「データの活用」とリスク管理

対象学年：第3学年

指導時間：4時間

- 目標：1. 学校生活におけるヒヤリハット事例を数学的な視点（データ分析）で捉える。
2. 収集したデータから傾向や潜在的な危険要因を特定し、安全確保のための改善策を主体的に考える。

	学習の流れ
1	<p><u>「安全とデータの関係」</u></p> <p>①課題の共有</p> <ol style="list-style-type: none">生徒に「学校内で『もう少しでケガをするところだった』『ヒヤリとした経験』」について尋ねる。小さい出来事（ヒヤリハット）への気づきが重大事故を防ぐための重要な「情報（データ）」であることを認識させる。 <p>②「ハインリッヒの法則」の紹介</p>

各教科等 × 安全

【高槻市立第三中学校の実践事例】

総合的な学習の時間×安全

【総合的な学習の時間：1年生 身の周りの安全】

テーマは

心の安全

体の安全

校内の安全

登下校の安全

人間関係と安全

情報と安全

テーマ → 課題 → 課題解決まで、
学んだ内容の発表資料を作成します。

スライド ポスター 寸劇

発表の形は班で考えます。

心の安全

三中の心の教室について

心の教室は友達関係で悩んでいた、大勢いると気を遣ってしまう人たちが行く、相談する場所です。
カウンセラーさんに相談すると楽になったり、自分の中の考えを整理してくれるということがあります。
心の教室は先生や親も良いです。
心の教室は1階南に1回、木曜日にあります。

体の安全

保健室にインタビュー!!

症状：頭が痛い、擦り傷、人とぶつかった、体調不良
場所：教室内、廊下など
時間：休み時間、3、4限目

体調不良（頭が痛い・気持ち悪いなど）が多いのは、3、4限目が多いそう!!その原因は主に寝不足だそう、、、寝不足を防ぐために、寝る前はスマホをいじったりせず、早めに寝られるよう意識してみてください

校内の安全

4 廊下

- ぶつかったら危険
- 走って滑ると危険
- 走っている人と歩いている人がぶつかって危ない

対策

- 走らない
- まわりをよく見て歩く

登下校の安全

【不審者からの被害】

つきまとい、声掛け、傷害、誘拐・盗撮などの犯罪被害
人通りの少ない場所、利用されていない空き地、死角になりやすい場所などで起こりやすい

また、不審者が出やすい時間帯は、日中の留守にしや
すい時間帯、夕方から深夜にかけての暗い時間帯、
そして登下校の時間帯

人間関係と安全

人間関係を良くするには

- コミュニケーションを意識する。
- 相手への理解を深める。
- 状況に応じて適切な距離を取る。
- 苦手な人とは無理に関わらない

情報と安全

SNSで投稿した写真や、動画などで、住所が特定される可能性があるということをご存知ですか？

不審者 投稿者

評価について

●以下の資料（教科・総合）の授業準備に際し、教科や学習時間（授業時間外等）を分ける。

○教科別

各教科、各教科科目別による一時的な評価と、総合的な学習の時間への評価は異なる。

○安全別

安全別	安全別	安全別
①安全で安心な学習環境	②地域の安全	③自分の安全
④地域や学校の安全	⑤地域の安全を確保	⑥自分の安全を確保
⑦地域の安全を確保	⑧自分の安全を確保	⑨自分の安全を確保
⑩自分の安全を確保	⑪自分の安全を確保	⑫自分の安全を確保

総合編

[A]	[B]	[C]
●科と課題の繋がりを意識した。一部が●科の知識を主とし、課題に活用することができた。	●科を主とし、課題に活用することができた。	●科を主とし、課題に活用することができた。
安全や課題について意識的に学び、自分の経験について深く考えることができた。		
自分の経験の振り返りができ、積極的に取り組むことができた。		
社会や地域の安全を確保する情報から学んだことで、新たな課題意識を高めることができた。		
「校区安全マップ」を通して、教科の学習事項と結び込んだ学習や学習成果を振り返ることができた。		
専門家の意見や論文を参考に社会や地域の安全を考えた、具体的な活動を実施できた。		

理科・社会×安全

校区のハザードマップを分析してみた!

理科・社会×安全

校区のハザードマップを分析してみた

- 校区の多くの範囲で内水氾濫は0.5m未満の被害を受けることがわかった。また、外水氾濫は0.5m～3mの被害を受けることがわかった。
- 校区内では氾濫による水害が発生する可能性があるから、水や食料の確保が必要になると思った。
- 校区には避難場（小・中学校やコミュニティセンター）が多くあった。

数学×安全

ヒヤリハットについて

ヒヤリハットとは重大な事故にはならないものの、直結してもおかしくない事例で、実際に「ヒヤリ」や「ハッとした」体験を伴う出来事。三
中ではその出来事を生徒が校内マップに入力でき、みんな共有できる
ヒヤリハットマップというシステムがあります。

数学×安全

ヒヤリハットマップ

全件	確認済	未確認	重複	発生	発生	発生	発生	発生	発生
28	12	0	3	0	0	7	0	0	6

全部で28件

音楽・家庭科×安全

避難所で幼児が困ること

- 食料がない
- いつもと環境が違う
- おもちゃがない、遊ぶ場所がない（公園など）
- 周りの騒音で泣いてしまう
- 家族と離れてしまうかもしれない

音楽・家庭科×安全

避難所で中学生として幼児にどんなサポートができる?

- 掃除する
- 保育実習で学んだことを活かして幼児への接し方を考える
- おもちゃがないので、ペットボトルでマラカスを作ったりして一緒に遊ぶ
- 折り紙で色々作って一緒に遊ぶ
- 鍵盤でいろいろな曲を弾いて一緒に歌う

令和6年11月25日（月）第6校時
2年5組 33名

※ 既習の「住生活の学習」と関連付けながら
「幼児とのよりよい関わり方」を実践したもの

1. 題材名

A 家族・家庭生活 (2) 幼児の生活と家族 イ「幼児とのよりよい関わり方」について考え、工夫する

2. 題材設定の理由（指導の立場）

日常生活で幼児と接する機会が少ない生徒に安全であるはずの住まいの中に、どのようなヒヤリハットが潜んでいるかを幼児の立場を想像して考えさせる。また、想定される家庭内事故の安全対策をどのようにしたらよいのかを考えさせることによって、家庭内の住空間の工夫だけでなく、身近にある安全への取り組みに対しても気づき、地域や今後の学習内容である「幼児とのふれあい実習」で活用することにつなげたい。

生徒はこれまでに、「幼児の体と心の発達」「幼児の生活習慣」「幼児の生活の特徴」「幼児の遊びと発達のかかわり」について学習している。指導にあたっては、課題を解決するために、前時までに身に付けた基礎的・基本的な知識や自分の生活経験と関連づけて考えさせること、また、幼児の立場、目線になり、中学生として、幼児の安全を守るためにどのような関わり方や工夫ができるかを考えることができるように取り組ませたい。

本時では、生徒にアドバイザーという職業を設定し、ある家族に幼児の住まいの安全対策を提案するという学習活動を展開する。消費生活総合サポートセンターの消費者教育教材とデジタルコンテンツの「ぐるっとハウス」を効果的に活用し、視覚的に問題を見つけ、班で意見を交流しながら、考えを深め課題を解決する授業にする。

3. 題材の目標

- (1) 幼児の発達と生活の特徴、子どもが育つ環境としての家族の役割、幼児にとっての遊びの意義や幼児との関わり方について理解するとともに、それに係る技能を身に付ける。
- (2) 幼児とのよりよい関わり方について問題を見だして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。
- (3) よりよい生活の実現に向けて、幼児とのよりよい関わり方について、課題の解決に主体的に取り組んだり、ふり返って改善したりして、生活を工夫し、創造し、実践しようとする。

4. 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・幼児の発達と生活の特徴が分かり、子どもが育つ環境としての家族の役割について理解している。	・幼児との関わり方について問題を見だして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的	・家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、幼児の生活と家族について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って



【高槻市立丸橋小学校の実践事例】

第5学年 体育科(保健)学習指導略案

高槻市立丸橋小学校

1. 単元名 けがの防止(学校や地域でのけがの防止)

2. 単元の目標

けがの防止について理解し、危険の予測や回避の方法、けがの手当の方法など、安全な生活を実践する力を身に付けることができる。

3. 指導計画(4時間扱い)

時	主な学習内容
1	けがは行動と環境が関わって起こることやけがを防ぐ方法を理解する。
2	事例から交通事故が起こる原因、交通事故を防ぐ方法を考える。
3(本時)	校内や地域でのけがの事例から、校内や地域でのけがを防ぐ方法を考える。
4	正しい手当の方法、簡単なけがの手当について知り、実践を行う。

4. 本時の目標

学校内のけがを振り返り、危険の回避の方法を正しく判断することができる。

5. 本時の流れ

	学習活動	指導上の留意点
1	学校内のけがの事例を振り返り、危険の回避の方法を正しく判断することができる。	

【高槻市立丸橋小学校の実践事例】

第6学年 図画工作科学習指導略案

高槻市立丸橋小学校

1. 単元名 ここから見ると

2. 単元の目標

奥行きやバランスを理解し、身近な場所を見て想像したことや表したいことを見付け、意図をもって「しかけ」をつくることができる。

3. 指導計画(5時間扱い)

時	主な学習内容
1(本時)	校内で起こるけがの事例から、班で、表現したい場所を決める。
2	班で、見せ方について話し合い、「しかけ」を決める。
3～4	場所の特徴と奥行きを生かし、班で協力して「しかけ」をつくる。
5	互いの活動を見合い、よいところを伝え合う。

4. 本時の目標

学校内で起こっているけがの状況から、表現する場所を決めることができる。

5. 本時の流れ

	学習活動	指導上の留意点

【八街市立朝陽小学校の実践事例】

4年生

総合的な学習の時間

「UDC（ユニバーサルデザイン朝陽）」

～より安心してすごせる校舎へ朝陽小改造計画！～



死角を防ぐくふう



減速のくふう

チャイルドビジョン体験
低学年目線を調査

「廊下は道路」

ユニバーサルデザインの学習を生かす



①生活安全（安全教育）

○6年生 総合「地域改造計画！ もっと安全・安心な町へ」



幼稚園との連携



地域の方々からの聞き取り学習

安全に関するアンケートにおいて、児童の生活安全に対する意識の高さが継続していることが確認できた。
「自分が安全に安心して過ごせるように気をつけている。」肯定的回答94.8%（前回：95.1%）
「友達や周りの人が安全に安心して過ごせるように気をつけている。」肯定的回答92.4%（前回：93.4%）

【高槻市立芝生小学校の実践事例】

指標4 【Do：実践】

【安全教育】

『みんなで作る「安全」「安心」「楽しい」芝生小学校』

生活委員会



全校児童がヒヤリハットを打ち込む



①ヒヤリハットの使い方を
知り、各学年に教える



②ヒヤリハットの入力



③集計したデータをもとに、
取組を考える

校舎内のカーブミラーの
位置確認など

【高槻市立芝生小学校の実践事例】

指標4 【Do：実践】

【安全教育】

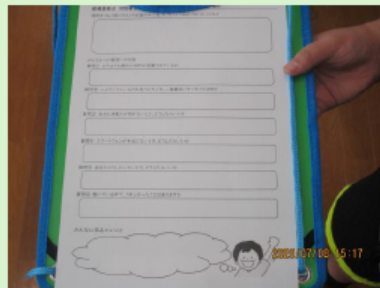
『みんなで作る「安全」「安心」「楽しい」芝生小学校』

保健委員会



消防の協力を得て、
児童のための出前授業

心肺蘇生法などを学び
ワークシートに気づいた
ことをまとめました



体育委員会



ボール、跳び箱などの
用具の安全な使い方や
遊具の正しい使い方を
高学年が1年生に教える



安全な使い方をマスター
したら、高学年にスタン
プを押してもらいます





【大阪教育大学附属池田小学校】
救命救急訓練



【台東区立金竜小学校】
ICTを活用した安全マップづくり



【石巻市立渡波小学校】
マイタイムラインの作成



【石巻市立住吉小学校】
着衣泳訓練

児童生徒による校内安全点検



【石巻市立桃生小学校】



【石巻市立渡波小学校】

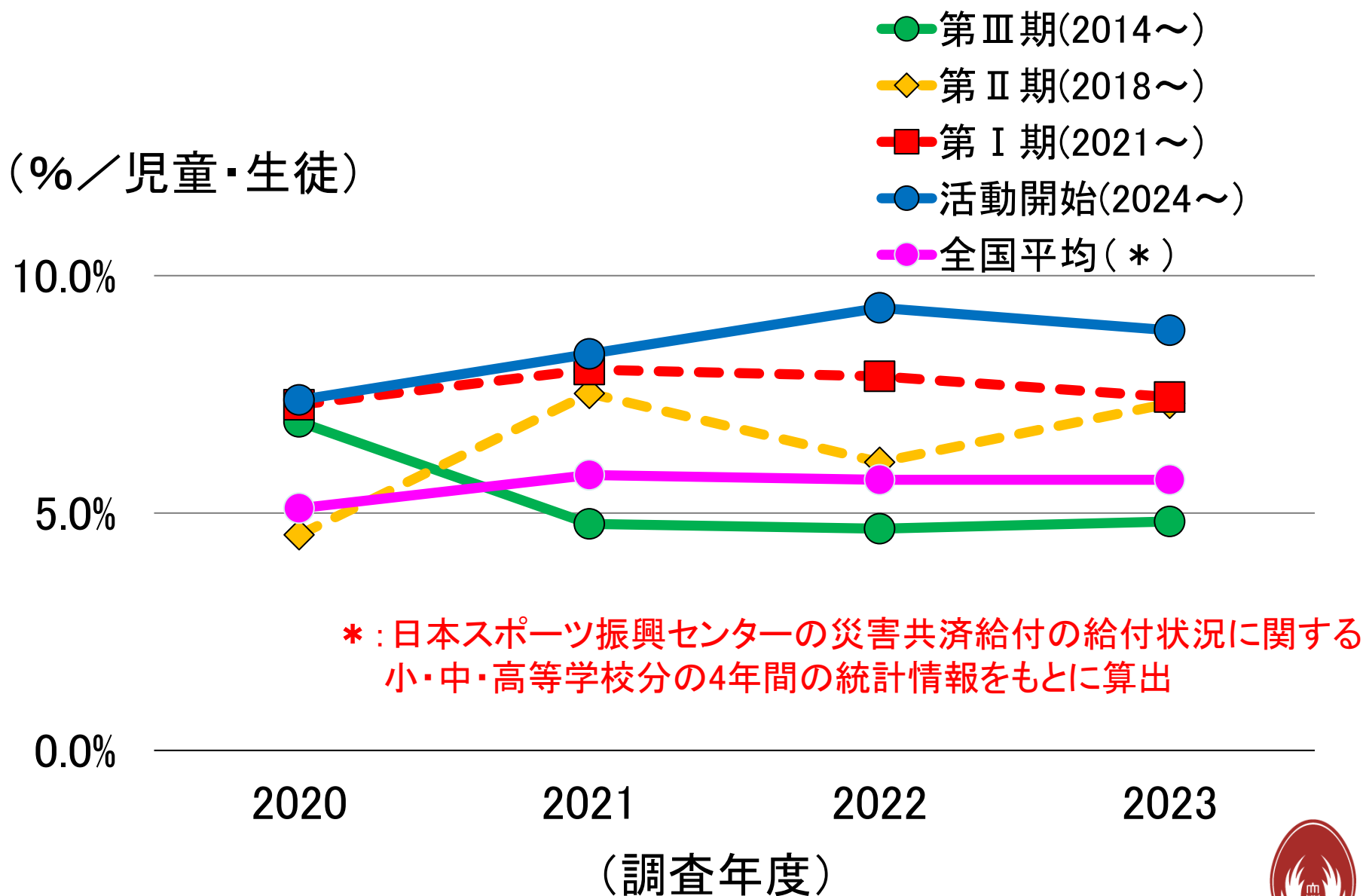


【石巻市立牡鹿中学校】



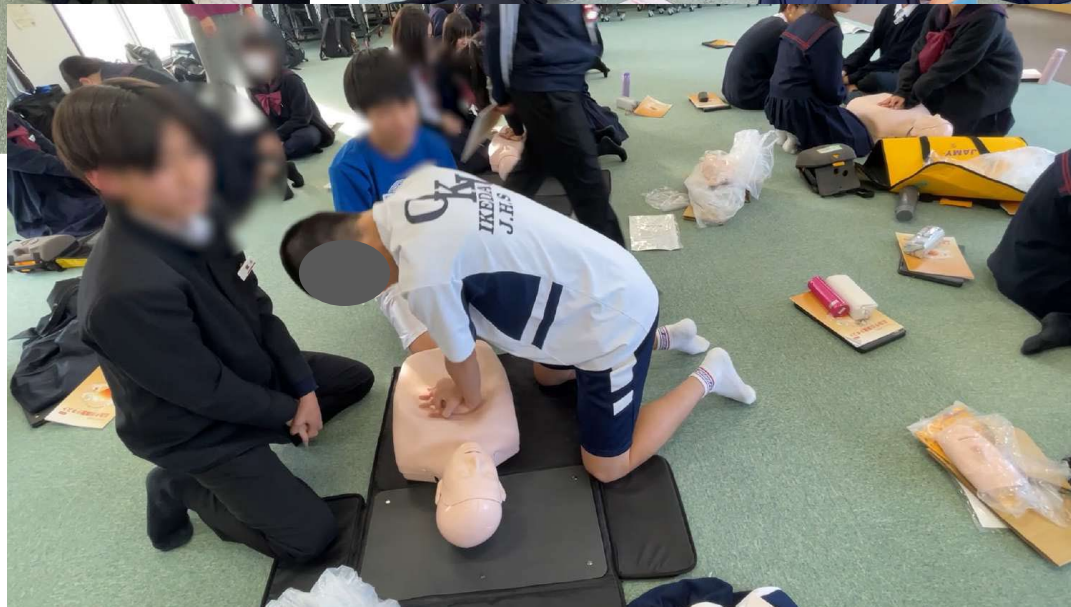
【宮崎県立高鍋農業高等学校】

図.SPS活動期別にみた平均災害共済給付申請割合



【大阪教育大学附属池田中学校の実践事例】

生徒対象 普通救命講習を活用した安全な学校作り



【大阪教育大学附属池田中学校の実践事例】

生徒会 部活動事故対応訓練を活用した安全な学校作り

【R6 ダンス部】 生徒会事故対応訓練に向けて

(ダンス部：10名、顧問：井場・山本)

11/14問題意識を持つ・想定を考える

【条件と想定の確認】

起こりやすいシチュエーション
ダンス部がありえる状況
想定する事象(時間の把握)
ゴールの確認
計画を立てる



11/18プランの確認

顧問と調整

【部員の共通認識】
計画の確認と部内共通認識
役割分担
練習に向けての調整
クラスルームで確認



11/19練習①

11/22プラン提出

【プランを部員全員実践】
時間を測って計画通りできるかを練習
顧問がビデオを撮り振り返り
プランの改善



12/4生徒対応救命講習受講 → プラン返却

【応急手当を学ぶ(部長、副部長)】

普及員(教員)による講習事象(時間の把握)
「理論と実技」…普及員資格
・AEDの使い方 ・一連の流れ
講習を受けてのプランの改善



12/6練習②

改善

【講習の内容を反映して練習】
部員に救急救命講習の内容を伝える
実際に練習
課題:少ない人数で対応するためには



話し合い①3分 映像 <https://youtu.be/Yh1hNIMKbk>
話し合い②3分 映像 <https://youtu.be/UG4Eda0TvDg>
話し合い③3分 映像 <https://youtu.be/1GtJhXPpWtI>



12/13本番

【事故対応の実践】
状況の説明と実践
生徒会中心に意見交流
課題:より少ない人数で
救命するためには



【宮崎県立門川高等学校の実践事例】



応急担架作成訓練



町内小中学校下校時一斉避難訓練の協力



【宮崎県立佐土原高等学校の実践事例】

近隣小中学校で開発したアプリを利用した出前授業



防災アプリ
「SHS災害.info」の開発



通学路危険箇所共有アプリ
「ミチテラス」の開発

【宮崎県立福島高等学校の実践事例】

「逃げトレアプリ」を利用した小学校との合同訓練



感想

本年度、行政や地域と連携して取り組んだ防災教育は、「守られる側」から「地域を支える担い手」へと意識を変える貴重な機会となりました。また、活動を通して、「自分事」として捉えることができるきっかけになったと思います。学校が地域の防災拠点としての役割を再認識するとともに、私たちが主体的に行動できる力を養えるよう、この連携を一時的なものにせず、今後もより強固なネットワークへと発展させていきたいと思います。

合同型学校運営協議会における安全推進



学区の安全推進を目指した「熟議」





【石巻市立住吉小学校】
地域ボランティアによる校内安全点検



【石巻市立渡波小学校】
学校区パトロール

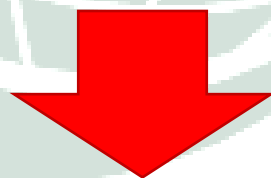


【台東区立金竜小学校】
PTA・地域協力者の登下校の見守り



【平塚市立土屋小学校】
交通安全協会による登下校指導

セーフティプロモーションスクールにおける
安全に関する学習活動は、
学校における「**安全・安心への共感と協働**」の
共有を基盤とし、子どもたちが10年・20年先の
地域の**安全・安心を担う人材**へと成長してくれ
ることを目標としています。



安全・安心の持続可能な発展

